

愛泉会 セミナー

コロナウイルスの影響で、予定していた研修や視察の多くが中止となってしまいました。そのかわりにオンライン研修会が主流となり、また事業所内での学習会にも力を入れました。

実践研修発表会

「生きがいのある生活作り」

デイサポートちとせんぼは、「ご高齢や障がいの重い利用者が安全に楽しく過ごせる事業所」をコンセプトとしています。今年度は「生きがいのある生活作り」をテーマに、「①活動の再構築」「②快適に過ごせる空間作り」「③健康面への取り組み」の3つに取り組みました。

活動の再構築では、屋外での活動中心から、音楽やダンスに合わせて楽しく体を動かす運動や昔やったことがあるコマ回しやメンコ、けん玉などを取り入れました。多くの方が興味を持って参加できる室内活動に切り替えることで、年齢問わず参加される方が増えていきました。快適に過ごせる空間作りでは、適温適湿の確保のため、休憩スペースの分散化、サーキュレーターと温室時計の設置により風の通り道を意識した空調管理の徹底に取り組んでいます。また、可動式テーブルの導入により、作業や食事以外の時間に広い空間を準備

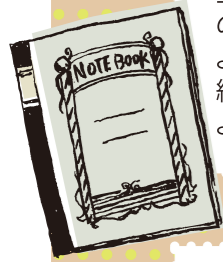
できるようになり、転倒の危険性が軽減しています。できた広い空間には、ソファやクッションを置くことで、お一人おひとりにリラックス

できる自分の空間を準備できています。健康面への取り組みでは、食事形態の調整や水分の取り方などグループホームや関係事業所、ご家族との連携を図りながら、個別の支援に取り組んでいます。

活動面・環境面・健康面への取り組みを行って、安心して過ごせる環境を作ることで、活動の趣向の幅が広がり、転倒防止や体調管理ができていたのと感じました。

今後も安心して楽しく過ごせる様な事業所づくりを目指していきたいと思ひます。

【デイサポートちとせんぼ 支援員 荒井 千沙】



『シブリング研修』

病気や障がいを持っている児童のきょうだいが日頃感じている寂しさや、不安など抱えている気持ちを「家族でジェットコースターに乗っているけど、自分は一番後ろに乗っている感じ。」「自分の事は見えていない。透明人間みたい。」と例えているのを切なく感じました。現在子育て中のお母さまも研修に参加されていてお話を伺うと「どうしても後回しになってしまう。手がかからないので、たくさん我慢させている。」と話されていました。家族思いのきょうだいの気持ちに寄り添う方法を各グループで話し合い意見交換を行った中で、医ケア児の施設職員から「きょうだい会」を開催している報告や内容について貴重なお話も聞くことが出来ました。講師の方からは、きょうだいをきちんと名前と呼んであげることで自分を気にしてくれる人がいるという安心感につなげていく、親との会話にきょうだいを話題にすることも、実際に会わなくても出来る支援など、今後役立つヒントをたくさん頂きました。相談に付添って

来られお会いする機会が多くあります。しぶたねキャラクター「たねまき戦隊シブレンジャー」が施設や病院などに訪問し行っているきょうだい支援を参考に、シブリングサポーターとして支援の種まきをして行きたいと思ひます。誰かに話したい時、ちょっとでも思い出してもらえよう存在になれるよう努めていきます。

天花渡邊所長が家族支援を大切にしている中の一つにきょうだい支援がありました。「シブリングサポーター」を天花全体に広げていき、きょうだいの気持ちの理解を深めていきました。きょうだいやご家族・当事者の周りの輪を大きく広げていく関わりが大切であることを教えてくれた研修です。

【地域生活支援センター天花 白田 龍太郎】



愛泉会の各委員会より

「支援力向上委員会について」

当委員会は、利用者さんの幸せを応援する支援や支援が困難な利用者さんへの対応等について一緒に考えていく委員会です。強度行動障がいの方々は、今まで障がい特性を理解されずに適切な支援をしてもらえない結果として、SOSの行動が激しくなっている状態です。また、私たちの支援力が足りない事で不適切な支援になってしまい、虐待事件や権利侵害に繋がる恐れもあります。

支援で大切な事は利用者さんに興味を持ち、根拠を基にアセスメントを行う事です。利用者さんの表情、動き、行動の意味を話し合う事により、様々な気づき、支援方法の工夫が生まれると思ひます。そこで大切なのがケース検討会です。今年度はケース検討会を2か月に一回は必ず行うようにしていますが、ケース

検討会というハードルが上がると思ひますので、「利用者さんを知る会」として、各事業所に合わせ取り組んでいます。検討して実践し振り返る事が支援力を高める一つと思ひます。

ケース検討会には委員会メンバーも参加させて頂き、アセスメントを基に利用者さんの障がい特性は何か、今の環境設定はあっているのか、何が得意で何に困っているのか等を一緒に考えさせて頂き支援力向上を目指しています。その他に、向陽園の支援力部門でお便りを発行し支援の気づきの一つになればと思ひ全事業所に配布しています。

これからも、利用者さんの幸せを応援する支援の検討が一緒に出来る委員会を目指し取り組んでいきます。 [支援力向上委員会委員長 村井 弘伸]

日々是好日

愛泉会で働いて..

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

向陽園 支援員

加藤 沙耶香



4月に向陽園に入職し、もうすぐ1年になります。今まで障がいのある方と深く関わったことが無かったため初めの頃は驚きと不安でいっぱいでした。なかなか利用者さんの思っていることや伝えたい事が理解できず悩んだこともありましたが、こうして日々利用者さんと関わっていく中で自分の事を職員または担当と認識して下さり関わりを持って下さることに嬉しさを感じます。

利用者さんの生活の場に立ち、支えるということはとても大変で悩むこともたくさんありますが日常生活にて何気ない小さなことでも利用者さんの笑顔が見られるとやりがいを感じます。

もっともっと利用者さんの事を知っていきより良い生活になるよう支援をしていきたいです。

児童デイサービス月のひかり支援員

沼澤 花音



今年の4月で入職して3年目になります。入職したての頃は利用者さんの気持ちを上手く理解できずに悩んでいた時期もありました。2年目から放課後等デイサービスに異動し、入所で学んだことを活かしながら関わっていく中で、利用者の障がい特性だけに目を向けるのではなくその方の出来る事や思いに目を向けていくことで成長した面に気づきやすくなりました。子供たちは日々成長が著しく気持ち面でも大きな変化がある中で関わることは大変ではありますが、それと同時に成長する姿を見られる事にとってもやりがいを感じています。

子どもたちの笑顔に日々癒されながら関わらせて頂いていることに感謝をしながらこれからも精一杯向き合っていきたいと思ひます。

グループホーム支援センターみらい看護師

滝口 えりか



私は、令和3年7月よりグループホーム支援センターみらいで看護師として働いています。主に、利用者様の健康管理や服薬関係に携わっています。スタッフの皆さんに、支えていただきながら良い職場環境で楽しく働かせていただいております。利用者様とは体調不良時などに接する機会が多いですが、北部エリアのグループホーム巡回時に生活の中で楽しそうに過ごしている様子を見て私も笑顔になり元気をもらえます。家庭的な雰囲気や、利用者様もリラックスして過ごさせています。もっと、ホームでの生活を楽しく元気に過ごしていただけるように今後も利用者様の健康管理に力を入れていきます。